

優先順位	1
------	---

# 公共施設を利用した雨水貯留施設整備事業について

土木部河川課

## 1 浸水被害の現状と課題

近年、全国各地で発生している局地的な集中豪雨は、限られた地域に短時間で多量の降雨をもたらすことから、特に中小河川において、より深刻な災害の発生が懸念される。また、気候変動に伴い今後さらに増加すると予測されている大雨への対応も課題となっている。

本市の高塚川流域では市街化による雨水流出量の増加や農地の減少による湛水能力の低下により、浸水被害が発生し、家屋の浸水、道路冠水による交通機能の障害など市民生活に重大な影響を及ぼしている。

## 2 浸水被害の解消に向けた対策

宅地開発が進み、築堤や河道拡幅等河川のみによる対策が難しい高塚川においては、河川改修だけでなく、雨水貯留施設の整備など総合的な治水対策が必要である。局地的な集中豪雨や大雨への対応として、流域全体で流出を抑制することが重要であり、雨水の貯留・流出抑制のための施設整備として、公共施設を利用した雨水貯留施設（貯留量 10,000 m<sup>3</sup>）2箇所を整備することは内水氾濫対策に有効である。なお、平成8年度には鴨江雨水調整池が完成し、鴨江排水路沿線の浸水被害が解消されている。



## 3 事業効果

高塚川流域では、河道改修に比べ早期に効果の発現ができる雨水貯留施設の整備を実施し、浸水被害の解消を図る。

また、施設の整備は、公共施設を利用することにより事業費の削減を図る。

【協議要旨】	
◆	国庫補助などの財源を確認する中で、公共施設用地を利用した雨水貯留施設の設置を検討する。

優先順位	2
------	---

## 遠州鉄道鉄道線連続立体交差事業について

土木部道路課

**【概要】**

市内を南北に走る遠州鉄道鉄道線は、新浜松駅から助信駅までの2.6kmの区間は、道路との立体交差化が完了している(第1期事業)。

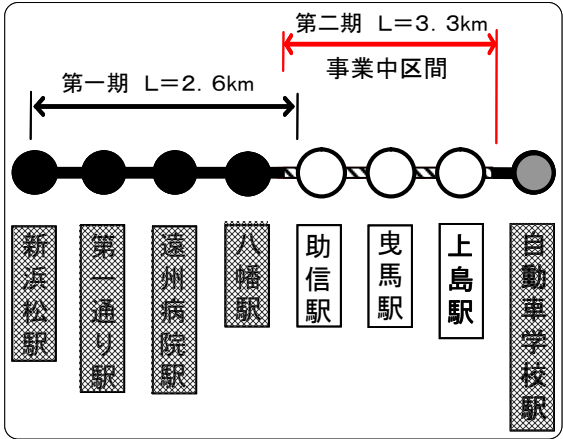
しかし、助信駅以北は鉄道が地上部にあり、踏切遮断による渋滞や踏切事故が発生している。また、鉄道により地域が分断されているため、一体的な市街地形成が阻害されている。

そこで、第2期事業として、助信駅から上島駅付近の約3.3kmの区間で、連続立体交差化を実施し、都市内交通の円滑化と、鉄道により分断された市街地の一体化を図るものである。

平成16年度から静岡県が事業主体として工事を進め、平成19年度からは、政令市移行による事務移譲により、浜松市が事業主体となって工事を進めている。



(曳馬駅付近から北側を望む)



**【現在の状況】**

事業完了時期について、平成20年度の市議会及びサマーレビュー等で、平成25年度事業完了の見込みであることを報告しているが、引き続き事業管理の徹底を図ることにより、工事は遅延なく完了する予定である。

(工事の進捗状況と今後の予定)

- 平成20年12月 終点部 仮線路切替え ～ 終点部 下部工事着手  
馬込川橋梁 下部工事着手
- 平成21年12月 起点部 仮線路切替え ～ 起点部 下部工事着手
- 平成22～23年度 高架橋 上部工事、馬込川橋梁 上部工事  
駅舎建築工事(助信駅、曳馬駅、上島駅)
- 平成23～24年度 軌道・電気工事
- 平成24～25年度 高架切替え、既設線路撤去、仮線路・仮橋梁・仮高架橋撤去  
事業完了

**【協議要旨】**

◆ 関係機関と調整のうえ、事業を進める。